

## 第2章

# 写真で見る被災地支援活動

---

## 3月

## 緊急消防援助隊を被災地に派遣



1. 発災当日、神奈川県緊急消防援助隊の出動要請を受け、茅ヶ崎市から消火隊と後方支援隊が被災地に向け出発。 2. 高速道路のサービスエリアは被災地に向かう全国の緊急消防援助隊で一杯に。 3. 全国から集結した救急車。 4. 被災地では人命検索の活動を行う。 5. 現地での活動にあたり放射線測定機器の説明を受ける。 6、7. 現地に設置した野営をしたエアータント。夜は雪が降る中、毛布と寝袋で寒さを凌ぐ。

## 4月

## 石巻市への避難所運営支援始まる



8. 3月に引き続き緊急消防援助隊を派遣。救急隊は福島第一原子力発電所から30km圏外の病院入院患者を県内外の医療機関に搬送。 9. 21日には発災以来休校していた学校が再開し、入学式も行われた。 10. 17日より神奈川県及び県内市町村合同での行政職員による石巻市避難所運営支援が始まる。 11. 避難所運営支援の主な業務は、物資の保管・配給。 12. 避難所に設置された自衛隊によるお風呂。避難者には大変好評だった。

## 5月

## 石巻市への行政事務支援始まる



1



3



5



2



4



6

1. 避難所の掲示板には様々な内容の貼り紙が並ぶ。 2. 避難所となっている体育館には生活物資だけでなく、子ども向けの本や遊び道具も。 3. 石巻市役所の行政事務支援も始まる。写真は基盤整備課での復興に向けたアンケート調査。 4. 建築課建築指導室での住宅の応急修理制度の受付業務。 5. 避難所ではボランティアによる支援活動も盛んに行われた。 6. 避難所ではビンゴ大会などのレクリエーションも支援職員の役割になっていく。

## 6月

## 拡がる被災地支援



7



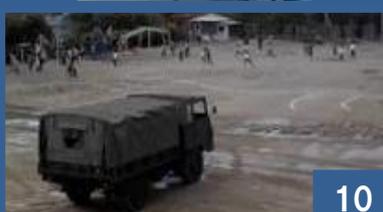
9



11



8



10



12

7. 仮設住宅の入居が進むものの依然として避難所は避難者で一杯。 8. 1日より災害時相互応援協定を結ぶ茨城県ひたちなか市に土木職を派遣。 9. 行政事務の支援内容は窓口業務に加え内部事務も対象となる。 10. 授業と自衛隊の活動が校庭で同居。月末には自衛隊が撤収していく。 11. 茅ヶ崎の小学生からの震災折り紙メッセージが避難所に届けられた。 12. 下旬より岩手県釜石保健所に保健師を派遣し、身体と心の相談支援が始まる。

# 7月

## 新たな課題と支援内容の変化



1



2



3



4

1. 保健師を派遣し釜石保健所を拠点に健康相談業務が行われた。 2. 避難所では運営が落ち着いて行くにつれ、備蓄庫の整理が支援職員にとっての課題となっていく。 3. 避難所では暑くなるに伴い、大量のハエに悩まされる。どの避難所でも支援職員による対応が進む。 4. 行政事務支援では市役所内に神奈川県からの派遣職員の詰所が設けられ、5月より継続して行っている住宅の応急修理業務の事務マニュアルづくりが進められた。

# 8月

## 避難所の変化と行政事務の変化



5



6



7



8



9

5. 避難所となっている体育館は風通しが悪く、扇風機、保冷剤などを活用し暑さ対策を取っていた。 6. ハエ対策のためハエ取りリボンを体育館全面に設置。 7. 避難者で一杯だった体育館も空きが目立つようになってきた。 8. 市役所内では被災者への様々な生活再建窓口が依然として設置。 9. 行政事務支援では住宅の応急修理制度の利用が進み、増えてきた委託業者への支払い事務までを担うようになっていく。

# 9月

## 半年に亘る避難所運営支援の終了



1



3



2



4



5

1. 避難所の備蓄庫の整理は派遣職員が短期間で交代する状況ではなかなか進まなかった。  
2. 避難所の壁は半年間で世界各国から寄せられた応援メッセージで一杯になっていた。 3、  
4. 日和山公園から見た旧北上川の中州の変化。5月にあった倒壊した家屋やがれきが9月にはなくなり更地となっていた。 5. 避難所の閉鎖を迎え、避難所にも避難者はほとんどいなくなる。避難所運営支援は9月末を持って終了。避難所も10月上旬にはすべて閉鎖された。

# 10月

## 拡がる行政事務支援



6



8



9



7



10

6. 建築指導課での住宅の応急修理業務は10月以降も引き続き神奈川県からの職員が担っていった。 7. 市役所の壁にも世界各国から寄せられた応援メッセージが貼られていた。 8.  
9月下旬より建築課での仮設住宅のあっせん業務も担うようになった。 9. 郊外の仮設住宅は空きが目立った。また、仮設住宅によっては隙間風や断熱性が低い住宅もあり改修が必要に。  
10. 9月の台風15号により住宅の被害は拡大した。

# 11月

## 被災地支援の更なる拡大



1



3



5



2



4



6

1. 全国61市の市長による全国青年市長会が被災地支援の新たなモデルケースとして開設した陸前高田市復幸応援センターに職員を派遣。 2. 津波に耐えた陸前高田市の「希望の松」。 3. 宮城県多賀城市での家屋の被害調査業務に新たに職員を派遣する。 4. 茨城県ひたちなか市で進む下水道工事。11月末で6ヶ月に及ぶ派遣期間を終えた。 5、6. 石巻市の行政事務支援の宿泊先。浴場は未だに震災直後のまま。

# 12月

## 依然として続く被災地派遣



7



9



10



8



11

7. 12月はじめに開局した陸前高田市災害FMにゲスト出演し、センターの活動内容を紹介。 8. 陸前高田市の景色。 9. 市役所敷地内に構えた復幸応援センターの事務所。市民活動団体、報道関係者、観光物産協会関係者、市職員等の交流の場所に。 10. 復幸応援センターではクリスマスイベント開催の手伝いも。この後2ヶ月の派遣期間を終える。 11. 依然続く住宅の応急修理業務。建築指導課横には大きな応援メッセージが貼られている。

# 1月

## 住宅の応急修理制度の受付終了



1. 市報「いしのまき」にこれまで継続して支援を行ってきた石巻市建築指導課での住宅の応急修理制度の申込受付の1月末での終了が掲載された。総申込件数は、11,318件にのぼった。 2. 依然として発災直後と変わらない石巻市立門脇小学校。 3. 宮城県多賀城市役所。市域の約3分の1が津波で浸水した。 4、5、6. 多賀城市での被災した家屋の被害調査の様子。家屋の傾き、ひび割れ、浸水状況等を調査。

